

## 発表論文、報告等一覧(口頭発表は除く)

(学術論文とは査読付の論文、報告はそれ以外)

No.	分類	著者	論文名	発表雑誌又は発表学会等	発表年月日	単著、共著の別	概要
1	学術論文	橋本典久	小梁付床版の音響域振動へのFEMの適用とその振動性状について、一建築物床版の振動と音響放射に関する研究・その1ー	建築学会計画系論文集, 第372号, pp. 1-9	1987. 2	単著	【振動解析、FEM、面内面外変位連成、振動モード】面内面外変位連成型有限要素法の定式化法を示し、固有値解析と振動応答解析プログラムを構成した。これらの解析結果が実測結果と良い一致を示すことを小梁付床版について実証した。
2	学術論文	橋本典久、桂充宏、安岡正人、藤井弘義	付加質量の付いた有限膜の遮音特性	建築学会計画系論文集, 第410号, pp. 1-8	1990. 4	共著	【付加質量、膜、分割振動、遮音性能】張力を与えた膜に錘を規則的に配置すると低音域で大きな遮音性能が得られることを実験的に示し、その遮音機構を解析的に検討した結果を示した。担当部分：着想、実験解析まとめまでの全般。(橋本、桂、安岡、藤井)
3	学術論文	N. Hashimoto, M. Katsura, M. Yasuoka, H. Fujii	Sound insulation of a rectangular thin membrane with additional weights.	Applied Acoustics, Vol. 33, pp 21-43	1991. 4	共著	【膜、付加質量、遮音性能、モーダルアナリシス】付加質量付き膜の遮音機構の検証として、膜振動をモーダルアナリシスにより分析した結果を示すと同時に、詳細な理論解析により遮音機構と特性を明らかにした。担当部分：着想、実験解析まとめまでの全般。(橋本、桂、安岡、藤井)
4	学術論文	N. Hashimoto, M. Yasuoka	Natural frequency of a plate, or a membrane, with an air layer.	J. Acoust. Soc. Japan, Vol. 13, No. 3, pp187-193	1991. 4	共著	【板、膜、空気層、固有振動数】空気層を有する膜または板の固有振動数の理論式を導き、空気層を伝搬する波動と膜または板を伝搬する波動の大小により、空気層の働きが変化することを、理論および実験により明らかにした。担当部分：理論解析、実験、まとめまでの全般(橋本、安岡)
5	学術論文	橋本典久	直方体空間の波動関数を用いた固体音放射計算に関する検討、一建築物床版の振動と音響放射に関する研究・その2ー	建築学会計画系論文集, 第428号, pp. 1-10	1991. 10	単著	【床版、固体音直方体空間、波動関数】Morseが理論解を示した直方体空間に関する波動関数展開法を、数値解析法に適用する方法を示した。また、これまで剛壁に限定されていた吸音条件を無条件に扱える逐次近似法を開発し、その有効性を実験により示した。
6	学術論文	N. Hashimoto	Normal mode extraction technique in a viscous-damped linear dynamic system.	J. Acoust. Soc. America, Vol. 95, pp2574-2581	1994. 5	単著	【固有モード、モード抽出法、伝達関数、モード形】粘性減衰系の振動現象に関して、デジタル信号処理により、埋もれた振動モードを簡単に抽出できる方法を示し、実験によりその有効性を示した。
7	学術論文	N. Hashimoto, M. Yasuoka	The development of a numerical analysis method for structure borne sound of building floor slabs, and its application to the evaluation of heavy weight floor impact sounds.	J. Acoust. Soc. Japan, Vol. 16, No. 2, pp85-95	1995. 3	共著	【床衝撃音、数値計算、FEM、波動関数】FEMによる床版の振動解析と音響放射解析法を組み合わせ、重量床衝撃音の解析法を構成する方法を示し、実測例との比較により適用精度を確認した。また、間仕切り壁のバネ定数としての取り扱いの有効性をしました。担当部分：着想、実験、解析、まとめまでの全般。(橋本、安岡)
8	学術論文	橋本典久、桂充宏、西川嘉雄、榎原健一、鳥居壮、中田真	付加質量の付いた膜の遮音性能、一ドーム用膜材料への適用に関する遮音実験ー	建築学会計画系論文集, 第475号, pp. 1-7	1995. 9	共著	【膜、付加質量、遮音性能、膜構造物】付加質量付き膜の実用を目的として、ドームなどの膜構造物屋根材を想定した実大遮音性能実験を実施した。これまでの室内実験同様、実大寸法においても遮音機構が成立し、低音域で遮音性能が向上することが確認された。担当部分：構想、実験、まとめまでの全般。(橋本、桂、西川、榎原、鳥居、中田)
9	学術論文	N. Hashimoto, M. Katsura, Y. Nishikigihara, T. Torii, M. Nakata	Experimental study on sound insulation of membrane with small weights for application to membrane structure.	Applied Acoustics, Vol. 45, No. 1, pp71-84	1996. 5	共著	【付加質量付き膜、遮音性能、膜構造物、2重膜】付加質量付き膜の実大遮音性能実験において、錘の影響、1重膜および2重膜の遮音性能の特性を明確にした。特に2重膜においては空気層の影響が大きいことを定量的に示した。担当部分：構想、実験、まとめまでの全般。(橋本、桂、西川、榎原、鳥居、中田)

10	学術論文	橋本典久、 桂充宏、西 川嘉雄	拡散度指数構成のための基礎的検討、一板振動の拡散度評価指標の構成とその利用に関する研究・その1ー	建築学会計画系論文集、第492号、pp9-14	1997. 2	共著	【板振動、拡散度指数、2点間相関係数、振動モード】板振動の2点間相関係数を用いて拡散度指数を構成する方法を提案した。拡散度の理論的な導出と、数値解析法による数値実験結果を示すとともに、簡易に拡散度指数を求める方法も提案した。担当部分：着想、解析、まとめまでの全般。（橋本、桂、西川）
11	学術論文	橋本典久、 桂充宏、西 川嘉雄	離散的数値計算法による各種振動板の音響放射特性に関する検討	建築学会計画系論文集、第502号、pp9-14	1997. 12	共著	【数値計算、音響放射、振動音源、拡散度指数】振動音源を離散化し、各々をピストン音源と仮定して数値計算することにより、任意の振動音源の音響放射率を計算する方法を開発し、種々の条件下での音響放射率の変化を検討した。担当部分：構想、実験、まとめまでの全般。（橋本、桂、西川）
12	学術論文	橋本典久、 桂充宏、西 川嘉雄、迫 田章人、高 橋通泰、小 島由紀夫	薄金属板を用いた遮音板の開発	建築学会技術報告集、第5号、pp142-146	1997. 12	共著	【錘つき遮音板、低周波騒音、透過損失、2重構造、騒音対策】錘つき遮音膜の応用として、薄い金属板に錘を一定間隔で取り付けて低音域の遮音性能を増大させる方法を開発し、実験室実験、現場実験により、性能および騒音防止材料としての有用性を確認した。担当部分：着想、実験、実用化展開、まとめまでの全般。（橋本、桂、西川、迫田、高橋、小島）
13	学術論文	小野英哲、 橋本典久、 高橋宏樹、 尾関恵	発音量から見た床の相対的評価方法の提示、一人間の加撃による発音からみた床の評価方法に関する研究（その1）ー	建築学会構造系論文集、第508号、pp33-38	1998. 6	共著	【床の発音、加撃装置、騒音レベル、官能検査】人間の種々の動作により発生する床からの発音の大きさを相対的に評価できる加撃装置を開発し、その妥当性を官能検査により検討した。その結果、加撃装置によるdB(A)と官能検査の感覚尺度が、種々の床構造や人間の動作に関して良く対応することが確認された。担当部分：音関連部分の検討、まとめ。（小野、橋本、高橋、尾関）
14	学術論文	橋本典久、 小野英哲	視覚障害者のための建築音響設計手法に関する研究（研究課題の抽出とその成立性に関する基礎調査）	建築学会技術報告集、第6号、pp103-108	1998. 10	共著	【視覚障害者、建築音響、障害物知覚、空間環境認知、騒音、インタビュー調査】視覚障害者の聴覚による環境認知に関し、全盲および強度弱視者30名にアンケート調査を実施した。その結果、建築音響関連要因の重要性が確認され、床の発音、空間音響性能、騒音の影響の3つの課題が抽出された。担当部分：着想、調査、まとめまでの全般。（橋本、小野）
15	学術論文	橋本典久、 澤田紘次	離散的数値計算法による音響放射率測定法の実験検討	建築学会計画系論文集、第516号、pp9-13	1999. 2	共著	【離散的数値計算法、音響放射率、振動測定、放射インピーダンス、分割寸法】離散的数値計算法による音響放射率測定法の可能性を衝撃加振、定常加振実験により確認した。当方は従来にない多くの長を有し、現場測定法として有用であることを示し、測定法、サンプリング条件、必要分割数等の具体的条件を明確化した。担当部分：構想、実験、まとめまでの全般。（橋本、澤田）
16	学術論文	小野英哲、 井上陽介、 橋本典久、 高橋宏樹、 井戸川純子	床での発音源位置の判断に関する考察、一人間の加撃による発音からみた床の評価方法に関する研究（その2）ー	建築学会構造系論文集、第520号、pp23-28	1999. 6	共著	【床の発音、発音源、距離判断、官能検査】視覚障害者の他者の認知や衝突事故の防止のなどの観点から、床からの発音で他者の存在距離を判定できるかの実験を行った。その結果、かなりの精度で検知が可能であること、音量には関係しないこと、判断には音の指向性が大きく関係していることなどが明らかとなった。担当部分：音響測定実施、検討部分のまとめ。（小野、井上、橋本、高橋、井戸川）
17	学術論文	橋本典久	拡散度指数による板の振動応答の評価、一板振動の拡散度評価指標の構成とその利用に関する研究・その2ー	建築学会計画系論文集、第523号、pp1-6	1999. 9	単著	【拡散度指数、板振動応答、駆動点インピーダンス、境界条件、振動減衰】振動の応答は、板の大きさ、板厚、形状、境界条件、周波数などにより変化するが、これを板振動の拡散度指数をパラメータとすれば、それらの条件を全て吸収した単一の特性で表されることを明らかとした。この知見の固体音評価上の有用性を、数値計算法による検討で示した。
18	学術論文	橋本典久、 澤田紘次	各種振動板の音響放射特性に関する実験検討	建築学会計画系論文集、第525号、pp9-14	1999. 11	共著	【離散的数値計算法、音響放射率、振動測定、各種平板】離散的数値計算法による音響放射率測定法を用いて、シェカ加振、音場加振実験により各種平板の放射特性を検討した。また、板厚、境界条件、減衰定数、リップなどの影響に関しても実験的に検討し、基本的な特性を明らかにした。担当部分：構想、実験、まとめまでの全般。（橋本、澤田）
19	学術論文	小野英哲、 橋本典久、 高橋宏樹、 井戸川純子	運動競技施設床の発音量に関する考察、一人間の加撃による発音からみた床の評価方法に関する研究（その3）ー	建築学会構造系論文集、第526号、pp25-30	1999. 12	共著	【床の発音、官能検査、運動競技施設床、評価方法】運動競技施設床の発音から見た設計、選択、開発の知見を得るため、各種床の発音量測定と官能検査による運動競技者の評価実験を行った。その結果、運動競技者には床の発音が必要であること、その発音量には最適値があることなどが明らかとなった。担当部分：音関連部分の実験、検討。（小野、橋本、高橋、井戸川）

20	学術論文	橋本典久、 佐藤亮二	音声明瞭度を中心とした各種施設の音響性能実測調査（青森県における事例報告）	建築学会技術報告集、 第9号、pp137-140	1999. 12	共著	【音響測定、インパルス応答、STI、明瞭度】青森県中部、南部に所在するホール、体育館、多目的空間、教会の併せて34施設で音響測定を行い、残響時間、STI、D値、C値などの音響性能指標値を測定した。それら相互の関係を検討するとともに、明瞭度指標のSTIに関する特性をMTIの分布等から検討した。担当部分：構想、測定、まとめまでの全般。（橋本、佐藤）
21	学術論文	橋本典久	板の振動応答における端部拘束の評価 板振動の拡散度評価指標の構成とその利用に関する研究 その3	建築学会計画系論文 集、第533号、pp9-15	2000. 7	単著	【拡散度指数、端部拘束効果、板振動応答、駆動点インピーダンス】板の振動応答は、共振の影響と端部拘束効果によって決定される。これらを分離して評価すると、明確な特性が得られ近似が可能となる。ここでは、端部拘束の効果を数値解析により検討し、簡単な近似方法を提案した。これにより、重量床衝撃音性能の簡易な計算方法の構築が可能となった。
22	学術論文	橋本典久、 佐藤亮二	ピアノ演奏時のステージ床の振動・音響放射特性の測定、コンサートホール・ステージ床の音響特性に関する研究 その1	建築学会計画系論文 集、第537号、pp1-6	2000. 11	共著	【ステージ床、ピアノ演奏、音響放射率、離散的数値計算法、音響インテンシティ法】ピアノ演奏時のステージ床の振動・音響放射特性を3つの異なるホールで実測調査した。離散的数値計算法による床からの放射音測定の結果、低音域ではピアノ音より大きな音が出ていること、床板の張り目の方向の影響があること、床板の厚みは40mm程度が望ましいことなどが明らかとなった。担当部分：構想、実験、まとめまでの全般。（橋本、佐藤）
23	学術論文	橋本典久	拡散度法による重量床衝撃音の予測計算、板振動の拡散度評価指標の構成とその利用に関する研究 その4	建築学会計画系論文 集、第537号、pp21-27	2000. 11	単著	【拡散度指数、重量床衝撃音、駆動点インピーダンス、音響放射率、板振動】新たに開発した拡散度法による振動応答評価法を応用して、重量床衝撃音の予測計算を行う手法を構築し、実測結果との比較により有用性を確認した。従来方法より精度、適用範囲の両面で優れており、実用的な利用が期待できることが示された。
24	学術論文	橋本典久、 小野英哲	視覚障害者の屋内歩行時の方向誤差に関する実験検討（視覚障害者のための建築音響設計手法に関する研究・その2）	建築学会技術報告集、 第11号 pp117-120	2000. 12	共著	【視覚障害者、建築音響、屋内歩行、方向感】視覚障害者の屋内歩行時の方向感について、建築音響空間の影響について実験検討した。その結果、残響時間は大きな影響はないが、1次元的な音場空間では方向性が良くなることが認められた。これらの確認のため、空港などの実際空間での歩行実験を行ったが、同様の結果が得られた。担当部分：着想、調査、まとめまでの全般。（橋本、小野）
25	学術論文	N. Hashimoto	Measurement of sound radiation efficiency by the discrete calculation method.	Applied Acoustics, Vol. 62(4), pp429-446	2000. 12	単著	【音響放射率、離散的数値計算法、拡散振動、平板構造】音響放射率の測定法として開発した離散的数値計算法を用いて、各種平板構造の音響放射率を測定した。また、従来法との比較実験を行い、本方法が低音域まで精度良く測定できることを示した。
26	学術論文	橋本典久	R/C壁ボード内装工法の振動・音響放射に関する実験研究	建築学会計画系論文 集、第545号、pp9-16	2001. 7	単著	【ボード内装仕上げ、R/C構造壁、離散的数値計算法、音響放射率】離散的数値計算法を用いて、R/C壁に施工されたボード内装壁からの放射音の増幅特性を測定した。板厚や空気層厚、下地の種類などにより特徴的な傾向が把握でき、固体音予測の資料を整備することができた。
27	学術論文	橋本典久、 佐藤亮二	チェロおよびピアノ演奏時のステージ床の振動・音響放射特性の比較、コンサートホール・ステージ床の音響特性に関する研究 その2	建築学会計画系論文 集、第549号、pp1-5	2001. 11	共著	【ステージ床、チェロ演奏、音響放射率、離散的数値計算法、音響インテンシティ法】チェロとピアノ演奏時のステージ床の振動・音響放射特性を調査し、各々の特性を比較した。また、床振動を直接試聴する方法を開発し比較したところ、チェロの場合はピアノと異なり、床からの放射音の音質が低下することが明らかとなった。担当部分：構想、実験、まとめまでの全般。（橋本、佐藤）
28	学術論文	星野昭雄、 寺坂美紀、 橋本典久、 他2名	球状中空部を有するポイドスラブの床衝撃音遮断性能に関する検討	建築学会技術報告集、 第14号 pp139-142	2001. 12	共著	【ポイドスラブ、床衝撃音、離散的数値計算法】球状の中空部を持つポイドスラブの床衝撃音遮断性能を実物大の部分模型により実験検討した。ポイド間隔をかなり狭めたタイプでも、良好な性能が得られることが明らかとなり、実用化の方向を決定することができた。担当部分：着想、調査、まとめまでの全般。（星野、寺坂、橋本、塩越、下村）
29	学術論文	橋本典久	拡散度指数による板振動応答評価の理論的検討、一板振動の拡散度評価指標の構成とその利用に関する研究・その5-1	建築学会計画系論文 集、第555号、pp9-14	2002. 5	単著	【拡散度法、重量床衝撃音、理論解析、音響放射率、板振動】新たに開発した拡散度法による振動応答評価法の成立を、理論解析により明らかにした。また、これにより導かれた解析式が実際とよく合うことを示すとともに、床衝撃音の定性的な傾向を明らかにした。

30	学術論文	橋本典久	固有値解析によるボイドスラブの床衝撃音遮断性能評価、一面内面外変位連成型有限要素法によるボイドスラブの床衝撃音解析・その1	建築学会計画系論文集, 第556号, pp9-15	2002. 6	単著	【ボイドスラブ、床衝撃音、有限要素法、固有値解析】面内面外連成型有限要素法をボイドスラブに適用するための定式化方法を示し、床スラブの固有値解析によりボイドスラブの重量床衝撃音性能に関する基礎的な検討を行った。また、ボイドスラブを均質板に変換するための新しい変換式を提案した。
31	学術論文	西川嘉雄、桂充弘、橋本典久、山下恭弘	実験モード解析による振動性状の検討と効果周波数の推定、一錘付き遮音板の設計手法に関する研究・その1	建築学会計画系論文集, 第558号, pp1-8	2002. 8	共著	【錘付き遮音板、実験モード解析、効果周波数、機械インピーダンス】錘付き遮音板の効果周波数を精密に求めるため、実験モード解析法を用いて振動性状の詳細検討を行った。その結果をもとに、板の機械インピーダンスの式をもとにした効果周波数の算定式を提案した。式の結果と実際の効果周波数が良く一致することが確認でき、こんごの錘付き遮音板の遮音設計に有用であることを示した。担当部分：着想、および、まとめ。(西川、
32	学術論文	橋本典久	拡散度法による重量床衝撃音の予測計算、一 小梁付床版への拡散度法の適用	建築学会技術報告集, 第17号, pp213-216	2003. 6	単著	【拡散度法、重量床衝撃音、小梁付床版、予測計算、計算精度】拡散度法による重量床衝撃音予測計算法を平板だけでなく小梁付床版にも適用するための方法を示した。これにより殆どのRC床版を取り扱うことができるようになり、拡散度法の適用性能が一段と高まった。予測計算と実測値の比較結果も示したが、十分に満足できる精度が確保できることが示された。
33	学術論文	橋本典久	拡散度指数の推定精度向上に関する検討、一 拡散度法による重量床衝撃音の予測計算法に関する研究・その1	建築学会環境系論文集, 第571号, pp9-15	2003. 9	単著	【拡散度法、重量床衝撃音、拡散度指数、固有振動数、重み係数】拡散度法による重量床衝撃音予測計算法の計算精度をより向上させるために、その基本となる拡散度指数の推定方法の高精度化を検討し、オクターブバンド内の固有モード数を、計算式ではなく逐一カウントする方法を導入するとともに、加振点の影響や遮断特性の影響なども考慮する方法を考案した。拡散度指数の推定精度は、境界条件によらず従来法より大きく向上すること
34	学術論文	安部信行、橋本典久	視覚障害者の障害物知覚・方向認知のための反響体の開発	建築学会技術報告集, 第18号, pp143-147	2003. 12	共著	【視覚障害者、衝突事故、反響体、聴感実験】視覚障害者が歩行中に障害物に衝突するのを防ぐため、障害物に簡単に取り付けられる反響体の開発検討を行った。膜と円筒を組み合わせた反響体を開発し、その検知に関して晴眼者による聴感実験を実験室で実施したが、特定の音を音源として用いた場合には、晴眼者でもほぼ全員が反響体の存在を検知することができ、反響体の可能性を確認することができた。担当部分：構想、実験、まとめまでの全般。(安部、橋本)
35	学術論文	橋本典久、安部信行	拡散音場計算と波動音場計算の差に関する検討、一 拡散度法による重量床衝撃音の予測計算に検する研究 その2	建築学会環境系論文集, 第578号, pp1-8	2004. 4	共著	【拡散度法、音場補正、重量床衝撃音、拡散音場、数値計算】拡散度法による重量床衝撃音予測計算法の計算精度をより向上させるために、音場の補正について詳細に検討し、具体的な補正值を算出した。これらの結果は、新・拡散度法の計算方法に導入された。
36	学術論文	A. Nobuyuki, N. Hashimoto	Development of acoustic reflector for use visually handicapped persons to recognize the location and orientation of obstacles	18th International Conference of Acoustics (Kyoto, Japan)	2004. 4	共著	【視覚障害者、衝突事故、反響体、聴感実験】視覚障害者の歩行事故を防止するための反響体の開発検討を行った。反響体の検知に関して晴眼者による聴感実験を実験室で実施したが、晴眼者ではほぼ全員が反響体の存在を検知することができ、反響体の可能性を確認することができた。
37	学術論文	橋本典久、安部信行	数値計算法によるボイドスラブの床衝撃音解析	建築学会技術報告集, 第21号, pp133-138	2005. 6	共著	【ボイドスラブ、床衝撃音、有限要素法、振動応答解析】面内面外連成型有限要素法によるボイドスラブの床衝撃音解析を行い、実測値との比較により、精度よく予測が可能であることを示した。また、これを用いて、各種条件変化の影響を検討して、ボイドスラブの床衝撃音性能の傾向を明らかとした。
38	学術論文	橋本典久、証谷秀喜、武藤奈津子	P-Fスタディによる騒音苦情反応に関する基礎調査 - 騒音事件に関する研究 -	建築学会技術報告集, 第22号, pp335-340	2005. 12	共著	【騒音事件、騒音苦情、P Fスタディー、地域性】騒音事件の関連研究として、人から自分の出す騒音に文句を言われた時の反応を、P Fスタディーという心理手法を用いて調査した結果を報告した。10人中2人が、売り言葉に買い言葉的な攻撃的な反応を示すことが明らかとなった。
39	学術論文	鐵矢正生、橋本典久	鋼製遮音ドアの低音域遮音改善工法の開発	建築学会技術報告集, 第23号, pp191-196	2006. 6	共著	【鋼製ドア、遮音性能、低音域共鳴透過、調和工法】鋼製ドアの低音域での遮音性能低下の改善工法を実験的に検討し、調和工法を開発した。



40	学術論文	安部信行、橋本典久	視覚障害者の歩行事故に関する基礎調査	建築学会技術報告集、第23号、pp325-329	2006.6	共著	【視覚障害者、歩行事故、全国調査、屋内歩行】視覚障害者が屋外、屋内歩行時に遭遇した事故について、点字による全国調査を行い、事故の発生原因を探り、解決案の提言を行った。
41	学術論文	橋本典久	全国市役所騒音担当者への近隣騒音トラブルに関するアンケート調査	建築学会技術報告集、第13巻、第25号、pp171-176	2007.6	単著	【騒音苦情、市役所、騒音トラブル】近隣騒音トラブルの実態を明らかにするため、日本全国の777市（東京23区含む）を対象としてアンケート調査を実施した。その結果、犬の鳴き声のトラブルが急増していることなどが明らかとなった。
42	学術論文	橋本典久、武藤奈津子	P-Fスタディによる騒音苦情反応の定量的評価方法に関する研究	建築学会技術報告集、第13巻、第25号、pp171-176	2007.6	共著	【騒音苦情反応、P-Fスタディー、攻撃型反応指数】これまでのP-Fスタディーという心理手法を用いて調査した結果を定量化する方法を検討し、攻撃型反応指数による評価方法を提案した。
43	学術論文	橋本典久	東日本大震災の応急仮設住宅における近隣騒音問題に関する調査研究	建築学会技術報告集、第78巻、第693号、pp901-907	2013.11	単著	【東日本大震災、応急仮設住宅、近隣騒音、アンケート調査】東日本大震災の仮設住宅で近隣騒音に関するアンケート調査を実施した。その結果、居住者の心理状態、特に孤独感と近隣騒音のうさささに有意な関係があることが明らかとなった。その孤独感を生み出している原因は、仮設住宅での一人住まいであることも分かった。
44	報告、その他	橋本典久	有限要素法による床スラブの振動解析と床衝撃音の計算	建築学会第29回音シンポジウム、pp1-9	1987.5	単著	【有限要素法、床衝撃音、振動解析、音響放射】面内面外連成型有限要素法を用いた振動応答解析と、それを応用した床衝撃音の計算方法を示した。音響放射解析は、室内音圧の2乗平均を算出する簡易解法としている。
45	報告、その他	橋本典久、桂充宏、安岡正人、藤井弘義	建築物床版の音響域振動に及ぼす間仕切り壁の影響についての実測および解析的検討	鴻池組技術研究報告、Vol.12pp63-73	1989.5	共著	【間仕切り壁、床版、固有振動数、並進パネ】床スラブの音響域振動に対する間仕切り壁の影響を実測および解析により明らかにした。間仕切り壁は、パネ定数 $2 \times 10^6 \text{kg/m}$ の並進パネとして扱えることを示した。担当部分：着想、実測、解析まとめまでの全般（橋本、桂、安岡、藤井）
46	報告、その他	橋本典久、桂充宏	付加質量膜を用いた騒音防止工法の開発、一膜の振動および遮音性能に対する空気層の影響	鴻池組技術研究報告、Vol.4pp53-64	1991.5	共著	【付加質量膜、空気層、遮音性能、2重構造】付加質量膜が空気層を介して他の材料と組み合わせられた時の遮音性能を、小試料による実験検討と理論解析により明らかにした。密閉空気層の場合には遮音性能への影響は大きい、僅かの空気層の開放によりこれを解消できることを示した。担当部分：実験、解析まとめまでの全般（橋本、桂）
47	報告、その他	橋本典久、桂充宏	小梁なし大型床版の床衝撃音実測例	鴻池組技術研究報告、Vol.5、pp83-90	1992.5	共著	【床衝撃音、大型床版、床版厚、インピーダンス法】小梁等のない大型の平板スラブの重量床衝撃音に関し、これまで言われていたのとは逆に床面積が大きくなっても重量床衝撃音性能が低下しないことを示した。また、学会が示しているインピーダンス予測法が、大型スラブには適用できないことを実証した。担当部分：実測、評価、まとめまでの全般（橋本、桂）
48	報告、その他	橋本典久、福島寛和	固体音防止設計における予測法の現状と今後の課題、—音響放射—	建築学会第36回音シンポジウム、pp107-144	1994.2	共著	【建築物、固体音、音響放射率、放射パワー】建築物に関する固体音予測法の現状を解説した。各研究者によって提案されている音響放射率の紹介とそれらの相互の比較を行い、固体音予測法確立の可能性について言及した。担当部分：試料作成、報告書まとめ。（橋本、福島）
49	報告、その他	橋本典久、桂充宏	固体音の放射特性、—建築分野における固体音制御への流れ—	日本音響学会誌、20巻、4号、pp332-337	1994.4	単著	【固体音、音響放射率、幾何音響、波動音響】固体音の物理的機構の最終段階となる音響放射に関して解説した。波動音響的取り扱いと幾何音響的取り扱いに分けて、これまでの音響放射の研究成果を総括するとともに、今後の研究課題について言及した。（橋本、桂）

50	報告、その他	桂充宏、西川嘉雄、橋本典久、池添博	工場内に設置された機械の吸音力特性に関する実測調査	日本音響学会、騒音振動研究会資料、N-95-31, pp1-7	1995. 6	共著	【工場、機械、等価吸音率、残響時間】工場に設置される機械の音場への影響を実測調査し、残響時間の変化から得られる機会の吸音力を、設置面積当たりの吸音力として扱えば、ほぼ一様な値になることを示した。この結果により、機械を含めた工場の音場検討や騒音検討が可能となった。担当部分：着想、まとめ。（桂、西川、橋本、池添）
51	報告、その他	橋本典久	固体伝搬音の現状と対策、一音響放射と室内音圧の算定一	環境管理、Vol. 32, No. 7, pp23-29	1996. 7	単著	【音響放射率、振動音源、ピストン振動板、拡散振動板】音響放射機構の基本的事項の説明として、ピストン振動音源、モード振動音源、拡散振動音源など、音源の特性別に特長と算出式を解説した。また、具体的な材料を取り上げ、それらの特性を比較するとともに、実用的利用の上での問題点を整理した。
52	報告、その他	西川嘉雄、橋本典久、桂充宏、山下恭弘	体育館における音響性能調査	日本音響学会、建築音響研究会資料、AA96-38, pp1-8	1996. 11	共著	【体育館、明瞭度、STI、エコー、主観評価】音響障害が生じやすい体育館を対象とした音響調査を実施し、主に明瞭度の観点から結果を整理した。また、収録した音源を用いて主観評価を行い、エコーのある音場ではSTIでの評価に問題があることを指摘した。担当部分：着想、測定、まとめの一部。（西川、橋本、桂、山下）
53	報告、その他	橋本典久	構造物からの音響放射性状とその評価法	騒音制御 Vol. 21, No. 6, pp. 366-371	1997. 12	単著	【固体音、音響放射率、モード振動、拡散振動】建築物の固体音評価方法に関して、振動板からの音響放射の理論とその性状変化について解説した。特に、モード振動と拡散振動の音響放射率の違いと、板の大きさ、厚み、減衰定数などの影響について詳述した。
54	報告、その他	橋本典久	振動壁面等からの音響放射特性の計算方法	音響技術、Vol. 27, No. 1, pp. 59-63	1998. 3	単著	【固体音、建築音響、音響放射率、計算法】建築音響に係わる種々の計算法のうち、壁面等が振動することにより発生する騒音の簡易な推定法、計算法について示すとともに、音響放射の基本的な諸特性を実測例や解析例をもとに解説した。
55	報告、その他	橋本典久、佐藤亮二、西川嘉雄、桂充宏	パソコンを用いた数値計算法による重量床衝撃音予測計算、一大型スラブ、普通スラブに関する有限要素法計算値と実測値の比較一	日本音響学会、建築音響研究会資料、AA98-44, pp1-8	1998. 12	共著	【重量床衝撃音、パソコン、有限要素法、大型スラブ】パソコンを用いた数値計算法による重量床衝撃音計算法を開発し、実測例の得られている種々の床版に関して、計算値と実測値の比較を行った。一般の技術者が利用する状況を考え、解析条件を統一して実施した結果、十分に実用的な精度で推定が可能であることが分かった。担当部分：解析からまとめまでの全般。（橋本、佐藤、西川、桂）
56	報告、その他	橋本典久、佐藤亮二	板振動の拡散度指数を用いた振動応答の評価方法	日本音響学会、建築音響研究会資料、AA99-21, pp1-8	1999. 7	共著	【拡散度指数、共振、駆動点インピーダンス、固有モード数】振動の応答のうち、共振の影響に関しては、板の大きさ、板厚、形状、境界条件、周波数などに拘わらず、板振動の拡散度指数をパラメータとすれば単一の特性で表されることを明らかにした。また、周辺の拘束の評価の方法に関しても、基本的考え方を示し、駆動点インピーダンスの予測が可能であることを示した。
57	報告、その他	西川嘉雄、橋本典久、佐藤亮二、桂充宏	パソコンを用いた数値計算法による重量床衝撃音予測計算、一その2 解析条件による計算精度の検討一	日本音響学会、建築音響研究会資料、AA99-25, pp1-8	1999. 7	共著	【重量床衝撃音、パソコン、有限要素法、計算精度】パソコンを用いた数値計算法により重量床衝撃音計算法に関し、物理定数、減衰定数、境界条件、吸音力などの各種要因が変化したときの計算結果への影響を検討した。条件の変化が全周波数に影響する場合や特定の周波数のみに影響する場合などがあることが判明した。担当部分：着想、まとめの一部。（西川、橋本、佐藤、桂）
58	報告、その他	橋本典久	床衝撃音の予測法	騒音制御 Vol. 25, No. 8, pp. 178-182	2001. 8	単著	【床衝撃音、予測手法、拡散度法、インピーダンス法】現在提案されている床衝撃音の予測法を整理、分類して、その特徴と問題点を解説した。拡散度法は、多くの要因を取り込んでいるため精度がよく、適用範囲も広いこと、インピーダンス法では大型スラブの予測精度が落ちることを示した。
59	報告、その他	西川嘉雄、桂充宏、橋本典久、佐藤亮二	パソコンを用いた数値計算法による重量床衝撃音予測計算	鴻池組技術研究報告、Vol. 10, pp111-120	2000. 3	共著	【床衝撃音、パソコンプログラム、FEM、大型床版】FEMによる振動応答解析と波動関数法による音響放射解析を併せた重量床衝撃音計算法をパソコンプログラムで動かすシステムを開発し、それを用いて実測値との比較による精度検討を行った。その結果、十分な計算精度が得られることが明らかとなった。担当部分：計算法構築、計算一部実行、まとめ（西川、桂、橋本、佐藤）

60	報告、その他	橋本典久	トラブルの本質	コンクリート工学、 Vol.44、No.11、p.38	2006.11	単著	【近隣トラブル、騒音おばさん、NJC、調停】騒音おばさんに代表される近隣トラブルの解決策として有効な、調停システムの我が国への導入と、米国でも調停組織NJCの有効性を視察結果をもとに紹介した。
61	報告、その他	橋本典久	建築学鳥瞰：「感情公害」は療原の火の如く、一建築音響工学から騒音学への展開－	建築学会誌、 Vol.123、No.1581、 pp48-51	2008.10	単著	【騒音トラブル、NJC、調停】騒音トラブルを対象として、工学的な建築音響工学から心理学や社会学、法律学などまでも含めた総合的な騒音学への展開を図る必要があることを指摘している。
62	報告、その他	橋本典久	近隣トラブルの現状と解決法	音響技術、Voi.38、 No.3、pp40-46	2009.9	単著	【騒音トラブル、全国調査、NJC、解決法】騒音トラブルを対象として、日本全国の市役所騒音担当者にアンケート調査を行った結果を紹介し、それらを基に、心理的な紛争段階を考慮した近隣トラブルの解決法について解説した。
63	報告、その他	橋本典久	音から見た視覚障害者のための街づくり、家づくり	八戸工業大学建築工学科、公開講座資料、pp.36-43	1999.10	単著	【視覚障害者、歩行、環境認知、転落事故、バリアフリー】視覚障害者が屋内や屋外を安全かつ快適に歩行行動できるための条件について整理し、建築音響に関する現状技術の総括と問題点の抽出を行った。また、駅のホームからの転落事故の原因についての建築音響の関連についても、実地調査の結果を基にした考察を述べた。
64	報告、その他	橋本典久、 小野英哲	視覚障害者の屋内歩行に対する建築音響の影響に関する実験検討	八戸工業大学紀要、 第19巻、pp.105-115	2000.2	共著	【視覚障害者、歩行、環境認知、建築音響】視覚障害者の屋内歩行に対する建築音響の影響について種々の空間での実験検討を行った。その結果、一次元的な音場空間では、歩行時の方向感が良くなる傾向がみられた。残響時間自体は、明確な影響は確認できなかった。
65	報告、その他	橋本典久、 下村喜俊	建築空間における音声明瞭度の性能評価に関する研究、その1・音声伝送におけるdiotic受聴とdichotic受聴の差に関する検討－	八戸工業大学紀要、 No.22、pp27-37	2003.2	共著	【音声明瞭度、STI、diotic受聴、dichotic受聴、聞き取りにくさ】各種音響関連施設で録音したアナウンス音を音源として、建築空間での音声伝送時の明瞭度を聴感実験により評価した。特に、diotic受聴とdichotic受聴の差について検討し、音声明瞭度指標であるSTIの妥当性を「聞き取りにくさ」に関する評定尺度法による実験により検討した。担当部分：構想から実験、まとめまでの全般（橋本、下村）
66	報告、その他	橋本典久	音声明瞭度評価指標STIの妥当性に関する聴感実験検討	平成13～平成14年度 科学研究費補助金 (基盤研究(c)(2)) 研究成果報告書、A4 版、全29頁	2003.6	単著	【音声明瞭度、STI、diotic受聴、dichotic受聴、聞き取りにくさ】音声明瞭度指標であるSTIの妥当性について検討した。各種音響関連施設で録音したアナウンス音を音源として、建築空間での音声伝送時の明瞭度を聴感実験により評価した。特に、diotic受聴とdichotic受聴の差について検討し、男声、女声の別、スピーカによる拡声方式の違い、ダミーヘッドの向きなども含めた総合的な聴感実験を行った。
67	報告、その他	安部信行、 橋本典久	視覚障害者の歩行環境整備のための歩行事故全国調査	八戸工業大学紀要、 No.24、pp81-92	2005.2	共著	【視覚障害者、歩行事故、全国調査】視覚障害者が日常的にどのような事故に遭遇しているかを全国的に調査した。約4割が歩行中の事故を経験しており、統計には表れないが、歩行時の事故防止の施策が重要であることが明らかとなった。
69	報告、その他	橋本典久	騒音問題は半心半技	季刊教育法、第176 巻、pp28-33	2013.3	単著	【騒音問題、煩音、半心半技、学校】学校の近隣騒音問題の特徴、対処法などを時代的背景、地域的条件を交えて解説している。実際に発生した騒音訴訟事例についての解説も行っている。
70	報告、その他	橋本典久	苦情社会を迎えて・上 一学校の騒音問題－	週刊教育資料、 No.1279、pp24-25	2013.12	単著	【騒音問題、煩音、半心半技、学校】学校の近隣騒音問題の特徴、対処法などを時代的背景、地域的条件を交えて解説している。実際に発生した騒音訴訟事例についての解説も行っている。

71	報告、その他	橋本典久	苦情社会を迎えて・下 一学校の騒音問題ー	週刊教育資料、No.1280、pp18-19	2013.12	単著	【騒音問題、煩音、半心半技、学校】学校の近隣騒音問題の特徴、対処法などを時代的背景、地域的条件を交えて解説している。実際に発生した騒音訴訟事例についての解説も行っている。
68	報告、その他	橋本典久	応急仮設住宅における近隣騒音問題に関する調査結果	音響技術、No.165、pp39-44	2014.3	単著	【東日本大震災、応急仮設住宅、近隣騒音、アンケート調査】東日本大震災の仮設住宅で近隣騒音に関するアンケート調査を実施した。その結果、居住者の心理状態、特に孤独感と近隣騒音のうるささに有意な関係があることが明らかとなった。その孤独感を生み出している原因は、仮設住宅での一人住まいであることも分かった。
72	報告、その他	橋本典久	近隣騒音トラブルの現状と解決法	騒音制御、Vol.37、No.3、pp**-**	2014.6	単著	【騒音問題、煩音、半心半技、学校】近隣騒音トラブルに関する総合解説である。問題の特徴、対処法などを時代的背景、地域的条件を交えて分析し、実際に発生した騒音訴訟事例を挙げて対処の仕方について紹介している。